

「本町銀座の辻」
(中央本町)



現在の景色

旧蒲郡町は中世西ノ郡と呼ばれ、その中心地がこの辻(中央本町交差点)でした。明治以降も役場などの主要機関が置かれ、明治21年に蒲郡駅ができると、駅の西側に6間道路が開かれ、町は南と西に広がる発展をみせました。

戦後になると映画館もでき、昭和30年には本町銀座防火建築帯が完成。私の子どものころは、本町銀座・中新道・6間道路と回れば、欲しい物がすべて手に入るといった町で、人が溢れんばかりの賑わいでした。

しかし、車社会を迎えると、このあたりも手狭となり、現在の蒲州市になるころには、主要な機関は順次郊外へ移動してしまいます。その後、この町は、車の通りは激しいが、人通りが寂しい町となってしまいます。今日では、当時から行われている本町銀座祭りが今も続き、最近では月1回の「福寿稲荷ごりやく市」を始めるなど、町興しも図られています。

かつてこの辻は三差路でした。この絵は当時道が無かった西側から描いたものです。電柱などの視的障害物を取り除くと、中央には市の象徴である砥神山がぽっかり顔を見せる風景になりました。



樹木医・技術士(建設部門) 原野 幹 義

「和菓子の趣・サザンカ(山茶花)」

唱歌にうたわれるサザンカは、垣根に植えられ、賑やかに花を付け、椿と違って多くの花びらを散らし、焚き火の煙とともに木枯らしに舞います。一方、演歌で歌われるサザンカは、しっとりとした大人の情感を漂わせ、宿の中庭に密やかに咲く花、といった風情です。もとは山中に自生し、一重の白い花をつける常緑の小高木です。そのため、日陰で育てると葉が生気を帯び、新緑などは、とてもみずみずしくきれいです。

牧野植物図鑑には「山茶花は元来ツバキの名前であるため、これをサザンカと読むのはよくない。」とありますが、サザンカは姫ツバキとも呼ばれるように、椿に比べて葉・花とも小ぶりで優しいその姿を、よく表しているように思います。

ちなみに「椿」は春の盛りに花が咲くことから作られた日本の国字で、中国では椿は、新緑が透明感のある白から、ピンク、紅紫に変化するチャンチンという木を指します。

この季節、和菓子屋では練り切りなどで盛んに山茶花がつくられます。写真は園芸品種の「朝倉」ですが、上品な和菓子のような趣があります。おいしいお茶と一緒に楽しみください。



目次 Contents

土地情報	3-5
かかりつけ医を持ちましょう	6-7
第9回「市長への手紙」から	8-9
楽問のススメ＝番外編＝	10-11
老人医療費適正化	12
健康がまごおり21 －心の健康・休養－	13
MYスクール・図書館だより	14
まちの達人・読む水族館	15
遊びにおいてよ児童館へ	16
健康カレンダー	17
無料相談	18
年末年始公共業務のご案内	19
お知らせ	20-29
クイズまちがいさがし・編集後記	30
ふれあい宅配便	31
インターネット公売	32
こどもミュージアム	32